



第10号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

百歳の小春の貌に見とれり

名孝子

季節は秋十一月、この句を頂いた。たいへん立派な句で驚いた。プロとアマのへだたりのないのが現代社会だ。その中であって、アマがプロを越えた世界をこの句はあらわしておる。

一日をせわしく過ごしてホッとした一瞬、午後三時ごろとしよう、お茶でもと思つて主婦がテレビをつける。百歳バンザイとかのテレビ番組であるらしい。記者がそれらしい人を集めるのでしようが、いつもながら立派な百歳老人が放映される。ツヤツヤとした風貌と、その人の趣味、生き方は毎日のことながら注目される。お茶を入れるのも忘れ、一瞬の番組に溶け込む。わが身の嬉しさが一句となつて出る。

『百歳の小春の貌に見とれり』
新年、檀信徒の長寿を願つて。



聖人のおことば

『他力ト申シサフラフハ。トカクノハカラヒナキヲ。マフシサフラフナリ』

いつものことながら聖人のおことばを拝すると、すぐ分かったような気がする。だがこれがなかなかのくせ者で、聖人の微妙な心理の小道に引き込まれて、何か分かったような分からぬような心境を抱く



ものである。聖人の消息をまわしぶみした関東のお弟子さんたちが理解するよりもまず、クソ暗記したものと思われる。

「他力とは何ですか？ それ

は自力ではないことですよ。

では元に戻って、他力とは何

ですか？ それは阿弥陀様の

本願力ですよ。では、阿弥陀

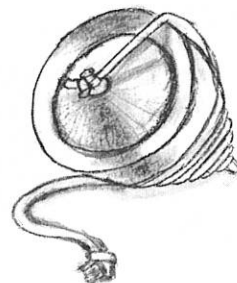
様の本願力とは何ですか？ 南無阿弥陀仏を称える

者を救うということですよ。それでは救われ方が大

事ですね？ そうですよ。すべておまかせの世界な

のですよ」

このあたりまでくると関東の皆さん方がどのよう
に理解していたかと思議な気がする。仏におまか
せするのが他力。他力の状態でおれる世界とはどん
なものなのか振り返ってみる人間のあさましさと強



情は、ひよっとしたら他力にはなれないような気もする。持って生まれた煩惱はいかなる事態がこよともわが身を離れることはない。この煩惱を裏返しにしたのが、他力の姿なのかもしれない。とことんこの煩惱と他力の相克(争い)の人生を追求していく、終わりのなき姿なのかもしれない。

お宮さんの犬

ある夜のテレビのひとつま。ペットを大事に最後までかわいがりなさい。保健所の統計によると、年間三十七万匹の愛犬が処理されているとのこと。その場面には今更ながら心にひびくものがあつた。集められたペットは(野犬も少々)引き取り手を待たつたために彼らは

一部屋に入れられる。二日目が別の部屋へ。三日目はまた次の部屋へ。そして七日目を待つ。引き取り手がなければ、全部ガス処理されるのである。係の人が次のように言った。

「むごいことではありますが、ここまでが私たちの仕事。安易な気持ちでペットを飼わないように」

犬のしつけもできないようではその資格はないように思われる。

同じ地球上のいのちの一つが大事にされないということは、人類の明日を物語っているかもしれない。

お宮の三匹の犬たちの長寿せんことを。



※行事予定(一月)

一月一日(木) 10時 修正会

十日(土) 19時 同朋委員会・例会

十九日(月) 14時～16時 学習会

二十八日(水) 10時 二十八日講・女人講



※行事予定(二月)

二月十四日(土) 19時 同朋委員会・例会

十九日(木) 14時～16時 学習会

二十八日(土) 10時 二十八日講・女人講

